Y04b　東南アジアへの小型望遠鏡寄贈活動の報告

石田俊人、黒田武彦、小野智子、時政典孝、鳴澤真也 (兵庫県立西はりま天文台)

天体望遠鏡はかなり高価ではあるが、現在日本では初心者向けから高級機までさまざまなものを購入することができる。こういった中、ここ二年続けて大彗星が出現したことを機会に望遠鏡のアップグレードをしたり、何かの事情で望遠鏡を使うことがなくなったために、使われないまま眠ってしまっている望遠鏡も多数存在するように見受けられる。しかし、その一方で、世界の中には望遠鏡の入手が困難な国も存在する。中にはそもそも望遠鏡が一台もない国さえある。そこで、日本国内で使われていない望遠鏡の寄贈を呼びかけ、望遠鏡の入手が困難な国々へ寄贈することは、国際的な天文学の普及、国際交流、海外の国々との相互理解の深まりなどに、大いに役立つものと考えられる。また、海外での天文教育関係者との交流が深まることにより、日本国内での天文教育の状況を考え直す機会ともなるであろう。

兵庫県立西はりま天文台では、１９９７年度に播磨科学公園都市のまちびらき協賛イベントとして、地元の佐用町・上月町と共同した実行委員会を組織して、ふだんの年よりも大規模な夏のイベント「スターダスト '97」が開催された。この機会をとらえて、寄贈望遠鏡を募集し、海外への寄贈を行った。

今回寄贈望遠鏡として収集したのは、(1) イベント実行委員会で新規購入した望遠鏡、(2) 望遠鏡メーカーに呼びかけて寄贈にご協力いただいた望遠鏡・双眼鏡、(3) 天文月報・新聞・天文雑誌・ホームページ等を通じて一般に呼びかけて、寄贈にご協力いただいた望遠鏡、の３つである。寄贈受入場所は、海外の天文関係者との交流のある方にご紹介いただくなど、個人的つてを活用してあらかじめ探しておき、受入希望があることを確認した後、各国大使館・領事館等へ受入先募集のお知らせを行った。この結果、望遠鏡１２台・双眼鏡１台を東南アジア４カ国へ寄贈を行うことができた。

望遠鏡のほとんどない国々は他にも多数あり、また今回の寄贈は各国平均それぞれ３台程度でしかない。このような企画は、今後も機会を捉えて継続して実施していくことが望ましいと思われる。